

R2・12・16

第2号

通巻151号

学院通信

発行
金光学院
719-0111
岡山県浅口市
金光町大谷1486
TEL (0865) 42-3115
FAX (0865) 42-3114



直信教会参拝 (六条院教会)

「新型コロナウイルス感染症と学院修行」

学院長 高橋 寛志



今年には新型コロナウイルス感染症の影響で、特科の入学が六月から十一月になった。六月の時点での他県をまたいでの移動が制限されるような状況も緩和された。そのような中、無事十人の特科生を迎えることができたことは、有り難いことである。

特科生に対して、学院生としての作法などの細かい動きは、本科生が親切に実意に指導してくれ、有り難いことである。特科生の成果として、こうした親切心が育ち、感謝していた。学院修行の成果として、こうした親切心が育ち、心配りがよくできるようなっているようにも思える。こういう心が育っていることは有り難いことである。

学院修行で大切なことは、神様が有り難くなることと、人を助ける気持ちが強くなることである。そういう面での修行の成果は出てきているように思う。もちろん、生活のあり方、修行の仕方など、学院生同士でも意見の違いはあるようだが、意見の違いを認め合いながら、心を磨くためのより良いあり方を求めているようである。

この度、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、他宗教研修や在籍外教会実習、選択別研修など、院外での研修の実施が困難になり、学院内で実施できる内容を中心としたカリキュラムに変更することとなった。その意味では、学院修行の多様性がなくなるようにも思えるが、学院修行の基本は、日々、金光様の御取次を頂いて、本部広前と学院広前への参拝・御祈念と各授業の受講であるので、その基本がより充実したと言えなくもない。極端に言えば、それら参拝・御祈念と授業、並びに洒掃や寮生活での学院修行が十全に進められるだけで、学院修行は十分だと思っ

ている。却って、門外不出の行をされた教祖様の修行に近い修行になったとさえ思う。そのことから、学院修行に、新型コロナウイルス感染症は、悪い影響を与えていないと思っ

いよいよを振り返って

学院次長 坂口 光正

五月十五日の入学以来、夏期在籍教会実習を経て、早くも、七か月が経ちました。今年は、新型コロナウイルス感染症の流行が拡大し、例年とは違う状況の中ですが、ここまで学院生、職員一同、健康のおかげを蒙り、修行を進めさせていただいていることは、大変ありがたいこ

とであります。ここからも、共々に、新型コロナウイルス感染症の終息を祈念させていただきますたく存じます。

学院では、前期前半と同様の新型コロナウイルス感染症防止対策を実施しております。特に、夏期在籍教会実習からの帰院時や、特科生の入学後の二週間は、特別な対策を行うなど、学院生の安全を守る対策を講じ、この度、冬期在籍教会実習を迎えることができました。

コロナ禍の状況も踏まえて、八月に改めて計画をした前期後半のカリキュラムを、ここまで予定通りに実施しております。吉備路方面への院外研修や直信教会参拝も、先方のご協力も得て、三密を避けるなどの万全な対策のもと実施することができ、ありがたいことでもあります。

特科につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、六月実施の予定が延期となりましたが、十一月五日に男子七名、女子三名、合計十名が入学をし、先日十二月七日に全員揃って卒業することができました。今年は秋も深まったの

入学となり、寒さ対策が必要となるなどはじめてのことも多くありましたが、万事にご都合お練り合わせを頂くことができました。本年度は、本科と特科が同じくらいの人数となりましたが、共に修行を進め、年齢差や社会経験の差を超えて、互いに認め合い、祈り合い、学び合う一か月となりました。

今後の日程について、お知らせいたします。例年、後期は実習を中心としたカリキュラムを編成しておりますが、他宗教研修、選択別研修、在籍外教会実習につきましては、屋内で不特定多数の方々との接することが避け難く、現状の新型コロナウイルス感染症拡大を踏まえ、受け入れ先の皆様や、学院生や職員の安全確保は勿論、金光町内の皆様、教内関係各位にも、様々な影響が及ぶ事態ともなりかねないところから、今年度は、実施を取りやめることとなりました。何卒ご理解を賜りますようお願い申し上げます。変更後のカリキュラムは、各講師が工夫を凝らした取り組みを予定しております。

こういうご時節だからこそ、じっくりと腰を据え、学行・信行の両面から教祖様のご信心に学ばせていただく機会とさせていただきますと願っております。そうしたところから、二月の初旬に第三回定期考査を実施し、その後、二月六日を後

期の開始日とさせていただきます。

尚、冬期在籍教会実習につきましては、例年、十二月二十九日に帰院をし、年末年始は、年頭御用奉仕にあたっておりましたが、感染防止の観点から、学院生は、御用に当たらず、一月四日に帰院式を執り行うこととなりましたので、ご了承ください。

例年に比べ、変更が生じましたが、日々の学院修行の根幹に、変わりはありません。学院生一人ひとり、卒業までの日々、身上安全、修行成就のおかげを蒙りますよう、引き続きご祈念賜りますようよろしくお願い申し上げます。



聖蹟巡拝 (才崎教会)

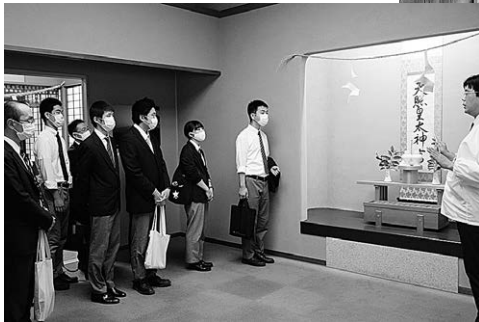


聖蹟巡拝 (ご生家)

「今までの歩み」

■聖蹟巡拝(吉備路・ご生家・寂光院方面)

本科生は九月十九日に吉備路方面に赴き、直信教会である才崎教会、教祖様四十二歳の事蹟に関わる西大寺観音院・吉備津神社、さらに、本教と同じく幕末



黒住教本部



吉備津神社



寂光院



泉勝院

期に開かれた黒住教の本部を訪れた。才崎教会では教会長から「みきの信心」等の教話を頂いた。また、吉備津神社では正式参拝の後、鳴釜神事を仕えていただいた。十一月十二日には本科生・特科生合同で教祖様のご生家に参拝した。往路では、早馬神社、荒神社、森田八右衛門の墓地などを巡ってご生家まで歩き、ご当

主・香取航師から教祖様にまつわる話を伺った。また、教祖様直筆の神名書付、天地書附など貴重な品々を拝見した。復路では、教祖様実父である十平様が幼少の教祖様を背負って参ったとされる泉勝院へ参拝し、住職の法話を拝聴した。また占見村の氏神である大宮神社へも参拝した。

さらに、十一月十六日には大谷村の檀那寺である寂光院、氏神である賀茂八幡神社へ参拝した。寂光院では、法要の後、住職の法話を拝聴し、その後、一人ひとり、川手家先祖、養父母の御位牌に焼香をさせていただいた。

■秋季霊祭・生神金光大神大祭

本部広前のご比礼を受け、学院広前において、九月二十九日に秋季霊祭、十月二十三日に生神金光大神大祭が執り行われた。

これらの祭典は、神様と、学院霊舎に祀られる物故職員と学院生を合わせて二百二十四柱の霊神様のお働きを受け、ここまでの学院修行を進められてきたことへのお礼と真心を現す祭典として奉仕される。

祭典に臨むにあたり、祭員は、少しでも神様、霊神様がお喜び下さる祭典を仕えられるように一ヶ月ほど習礼に取り組



生神金光大神大祭(吉備舞奉納)

み、実意丁寧祭典に祭典を仕えさせていた。さらに、祭詞起草員は起草・浄書、調饌・祭事係は神饌物、紙垂の調饌と祭具の調整、楽人は奏楽、舞人は吉備舞等、初めての御用に戸惑う者もいたが、学院生全員で御用を分担し、今日までのお礼をお供えさせていただいた。

複数の御用を兼ねる者も多く、どこまで尽くせば神様、霊神様への真心となるのかを求め、実意丁寧に取り組み続ける中で、それぞれ得るものがあつたようだ。御用を通し、それぞれが、生神金光大神様、諸霊神様への思いを新たにす機会となつたのではないだろうか。

■文化活動合同茶会

十一月十一日、学院広前において、文化活動の合同茶会を執り行った。合同茶会は、六月から始まった文化活動を終えるにあたり、これまで習得してきた成果を発表し、ほかの文化活動に対する理解を深めることを願いとされている。今年度は特科生も参加した。

書道は希望者も含め、それぞれが大切にしている言葉を書いたものを展示した。華道は、直前に生けた作品を並べ、会場を華やかに彩った。典樂の奏樂では、様々な楽器が揃い、美しい音色が響いた。吉備舞では、更に観る楽しさを味わうことができた。茶道は献茶の後、実際にお点前をした。お菓子とお抹茶をいただき、



文化活動合同茶会

お抹茶の良い香りと和やかな雰囲気、美味しさも嬉しさも一入であった。

■創設記念日記念行事



直信教会参拝 (芸備教会 神徳書院)

明治二十七年十一月二十九日に神道光教会学問所が創設されてから、今年で百二十六年になる。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、特科入学の時期が変更になったことにより、特科生も共に創設記念日を迎えることとなった。お日柄である当日、朝参拝の折に、学院長が教主金光様へお届けし、午前八時より学院広前において、創設記念式を行った。引き続き、記念行事として、笠岡教会、芸備教会、六条院教会に参拝し、各教会では、ご祈念の後、教会長より、初代にまつわる教話を拝聴した。

道中には、教祖様が厄晴れ祈願に参拝され、また、教団設立を願って佐藤範雄師が訪れた沼名前神社にも参拝した。

本科生、特科生共に、教祖様が足を運んだ場所を訪ね、直信が道開きに尽力されたお土地の上を踏みしめ、時代を超えて教祖様や直信諸師に思いを馳せる一日となった。

■修徳殿入殿

本部広前の修行生としての自覚を深め、教主金光様の御取次を頂くことの意味を再確認する。そのことを通して、お道の教師にお引き立てを願う者としての自覚が深まることを願いと、入殿を実施している。

第一回(九月)は、「教師志願の理由や、在籍教会・各家庭の信心の歩みをもとに、現在、どのような信心の流れの中にいるのかを確認する」、第二回(十二月)は、「前期に学んだことをもとに、本教の信心生活について求め合う」という願いのもとそれぞれ実施した。また昨年度に引き続き、特科生も卒業間近の十二月に入殿を実施した。

輔導、副輔導の教導を頂き、また修徳殿という場のはたらしの中で、それぞれに、ここまでの学院修行を振り返り、ここからの課題等を確認できた。

日程

(冬期在籍教会実習まで)

9月	10月	11月	12月
1	2	1	1
2	3	2	2
3	4	3	3
4	5	4	4
5	6	5	5
6	7	6	6
7	8	7	7
8	9	8	8
9	10	9	9
10	11	10	10
11	12	11	11
12	13	12	12
13	14	13	13
14	15	14	14
15	16	15	15
16	17	16	16
17	18	17	17
18	19	18	18
19	20	19	19
20	21	20	20
21	22	21	21
22	23	22	22
23	24	23	23
24	25	24	24
25	26	25	25
26	27	26	26
27	28	27	27
28	29	28	28
29	30	29	29
30		30	30

帰院式

第三回 求道の日

教話実習①

修徳殿障子張り

池掃除

特科入学考査

第一回 本科修徳殿入殿

聖蹟巡拝(吉備路)

学院・秋季霊祭

生神金光大神大祭御用奉仕

教学研究所見学

学院・生神金光大神大祭

第四回 求道の日

第二回 部屋替え

特科入寮式

特科入学式

聖蹟巡拝(特科・木綿崎山周辺)

第二十二回文化活動合同茶会

聖蹟巡拝(生家方面)

聖蹟巡拝(寂光院方面)

特科教話実習

第二回 定期考査

学院長寮内巡回

創設記念式・直信教会参拝

第二信心レポート懇談

第五回 求道の日

特科修徳殿入殿

特科卒業証書授与式

第二回 本科修徳殿入殿

布教功労者報徳祭御用奉仕

冬期在籍教会実習

特科生 卒業



特科調饌実習

今年度の特科は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、日程が変更されたが、十一月五日に入学が叶い、十名(男子七名女子三名)が、十二月七日までの一か月間に及ぶ学院修行を進めることができた。

学行では、教典ゼミ・祭式・祭詞などを受講し、信行では本科生の班に加わって、参拝、洒掃、炊事等を行じ、奉仕のお役にも当たった。また、木綿崎山方面、ご生家方面、寂光院方面の聖蹟巡拝に加え、創設記念式や記念行事にも参加することができた。それぞれが意欲をもつて修行に取り組み、教師としての基礎的素養を習得し、ここから御用に立たせていただく心構えができたようである。

また、半年前に入学をした本科生と互いに磨き合うことができたことは、大変ありがたいことである。ここからの御用成就を祈念する。

「調饌」の御用を通して



岡山県・二之樋教会
松本 信夫

私が、入学前から楽しみにしていたのは、「調饌」です。子どもの頃、本部へ参拝した時、野菜・果物などが美しくお供えされているのを見て、感動したことを昨日のこのように思い出します。

在籍教会の大祭の調饌では、テープやつまようじを使わないとうまく仕上がります。一緒に御用する総代さんと、「あいすまんことじゃが許していただくよう」と言いながら献饌させていただいていました。

今回私の学院入学が決まった時、総代さんに「先生、調饌を勉強してきて下さいよ」と言われて、送り出されました。在学中、学院広前では果物、本部広前では野菜と、二回の調饌をさせていただく機会がありました。

在籍教会では、信者さんの目を意識して、見映えをよくするため、野菜・果物はぎっしり隙間なく重ねて調饌していました。しかし先生方からは、「調饌は神様に真心を受け取ってもらうことが何より大切だ」と教えられました。何事も神様に心を向けてさせていただくことが大切だと実感しました。また、盛り方も、

となり同士のくつつきの強度・空間(すきま)を工夫しながら、ピラミッド型でなく釣鐘型にすることなども教えていただきました。

教会でも総代さん達と、教えていただいた「調饌」に取り組ませていただきます。とても有意義でありがたい時間でした。

実意丁寧の修行



東京都・町田教会
川越 未来子

今年度の特科は、新型コロナウイルス感染症拡大で、六月入学から十一月入学となったため、蒸し暑い空気ではなく、秋のさわやかな風を感じながら学院の門をくぐりました。何もかも初めてのことで、右往左往しながら修行は始まりました。学院では学行、参拝、洒掃と一日が息つく暇もないスピードで過ぎていきます。夜にはヘトヘトになって、足も動かなくなる程です。そんなハードな修行の中、色々な事に気付かされたり、考えさせられたりしました。中でも一日中あらゆる場所で行われる作法と洒掃の丁寧さには驚かされました。一つ一つに意味があり、自分の普段の生活の雑さを反省させられました。実意丁寧は信心の上で

も大切な要となってきました。卒業してからも、学院在学中と同じとまではいいませんが、大切なこととして取り組みたいと思います。他にも調饌、祭詞、祭式など教会に戻ってすぐに実践させていただけると多々学びました。学院で吸収したものを、ここからの御用にしっかりと生かし、神様にお使いいただける教師にならせていただきたいと思います。

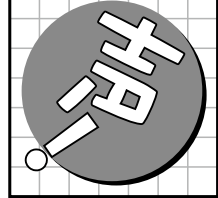


特科聖蹟巡拝(木綿崎山)



特科教話実習

学院生の声



円満の秘訣



千葉県・松戸教会
鈴木 一監 もとき

今年の学院本科生は、十三名と、例年と比較して少なく、さらには、新型コロナウイルス感染拡大で金光町外への外出ができない状態が続いています。そのため、人間関係が濃密になり、息苦しくないかという心配の声も頂きます。しかし、今日まで、おかげを頂いて大きな問題もなく、とても仲が良く過ごさせていただいています。

これには、私たちの取り組みと、神様のお働きがあると思います。その取り組みとは、「ありがとう」と言葉にすることです。食堂で手伝ったり、洒掃用具を取ってあげたり、プリントを渡したり、本当に小さな事でも「ありがとう」と皆が言うので、学院生活の中は、ありがとうという言葉で溢れています。「ありがとう」と言われて嫌な人はいないと思



自主活動(運動会)

ます。私たちの仲の良さは、言う人も言われる人も心が和らぐこの「ありがとう」のおかげだと思っています。

自主信行日には、町外に出かけることもできませんので、皆で工夫して、共励会や運動会などの自主活動に取り組み、円満で充実した学院修行を進めさせていただいております。

これから残り半年、仲が良くて起こってくる問題、また、仲が良かったために何も起こらないという問題等あるかもしれませんが、全て神様のお差し向けとして、修行させていただきたいと思

ご時節を頂いて



鳥取県・米子教会
河合 今日子

ここまでの学院生活を振り返って、私は今年、学院に入学させていただけて本当によかったなと思います。

新型コロナウイルス感染拡大で入学もどうなるか分からない状況でしたが、予定通り無事に入学することができ、優しくて素敵な同期生や先生方に出会うことができました。コロナ禍で、学院でもいろいろ制限があり、出来ないこともあります。しかし、これまでの学院生はすることが出来なかった御用をさせていただけることもあり、とてもありがたいなと感じています。

また、今年は本科生が十三人で、近年の中で一番少ない人数です。人数が少ないからこそ、一人ひとりと濃く関わることができ、それぞれの良いところをたくさん発見することができました。

学院に入学してから、神様を感じ、ありがたいと思えることが増えてきました。そんな学院生活もあつという間に残り半分となりました。これからも、金光様をはじめ、いろいろな先生方、同期生の神様に対する姿勢や信心の在り方を見

習い、毎日ありがたく、楽しく、喜んで修行させていただきたいなと思



本科修徳殿入殿(第一回)



求道の日(金乃神道)



直信教会参拝(笠岡教会)